

・・・・・ 卷頭言 ・・・・・

発行本日・開催地合意書本日

八つ大木と野共

本書は、平成26年2月22日に日本医師会総合政策研究機構（日医総研）ならびに日本学術会議が共催した「平成25年度日本医師会総合政策研究機構・日本学術会議共催シンポジウム」の内容をまとめたものです。

東日本大震災による地震動と津波の影響により、東京電力福島第一原子力発電所で発生した原子力事故から3年あまりが経過しました。今日においても地元住民のみならず、近隣県をも含む広域の住民の方々は、放射線による健康への影響に不安を感じています。そこで、日本医師会のシンクタンクである日医総研では原発事故後の健康支援に関するワーキングペーパーを発表し、住民の健康支援について発言してきました。また、日本学術会議においても、原発事故後の健康管理に関する提言をまとめています。

今回、原発事故後の国民の健康支援への考え方と同じ方向性を見出している2つの学術専門団体が、この問題について議論を深め、シンポジウムという形式をとることで一般の方にも知っていただける好機と捉え、初めての試みとしての本シンポジウムを開催したところです。

本書に取りまとめました、先生方によるご講演と真摯な討論、そして議論を踏まえたシンポジウムの共同座長取りまとめが、今後の福島原発災害後の国民の健康支援のあり方に対する提言として、わが国の政策に反映されることを望むと同時に、その実現に向けて医療政策提言集団である日本医師会の果たすべき役割は大きいと考えています。

最後に、本シンポジウムの趣旨にご理解をいただき、ご講演いただきました講師の先生方、関係機関各位ならびに、ご出席を賜りました全国の皆様方に心より感謝申し上げます。

平成26年6月

日本医師会長 横倉 義武
日本医師会総合政策研究機構所長